

(前回よりつづき)

精神的にも體的にも一物も殺すことなく、萬物を生かさなければならぬ。一物も殺さずという意味は、魚を獲り牛豚を殺して食用としてはならぬということではない。栄養を摂取したならばより多く活用して、そのエネルギーを神の御目的のために働かせることが活用であり、萬物の使命を人が代行する。生かすとはその使命に生きることである。これによって人の精神は神の御意思に逆うことなく、宇宙大氣に反することなく生活する。

人は進む目的を明らかにすれば生活も明らかになる。人間の目的は宇宙の大精神を大本として人間の完成を達するにある。古は人間は宇宙の原則を守って、それに従い精神的にも體的にも神の御意思そのままであった。

今日の人間は人の知識ばかりを尊重して、宇宙の真理を汲んでいない。真理の大道は既にすたれて人に道なく、道のないところに人の知識で道を作っている。道を誤った結果、争いの世界となり、人は苦しんでいるではないか。

人の思想が悪化すれば、精神的に天運循環にも自然悪化を招くのである。宇宙の大氣に逆って不順の氣候を作り、人類のみならず萬物にも迷惑をかけている。このまま進むならば人が自らを殺し自滅するところまで進む危険が迫っている。

科学も哲学も医学も政治学も、経済学も、総て精神的が基で現われて體的に活動するのが道順である。物を一物も殺さず、破壊せず、すべてを更生させ、次々に新しく科学の力を發揮し、また體的の学問も更生して人間の生活に役立たせるように轉換しなければならぬ。神界からの精神力で新規なものを生み出し、あらゆるものを育てて、世界の人間の生活に循環をはかって地上の人間が栄えるよう、日常の生活に織り込んでいかなければならない。

(つづく)